

No.147  
2005.  
3.31

# 岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会

TEL 0575-28-3111

振替名古屋637909

## 名和昆虫博物館の理念と運営

名和昆虫博物館館長 名和 哲夫



もともと財団法人  
名和昆虫研究所の付  
属施設として、農作  
物や家屋の害虫の啓  
蒙普及を目的に、大  
正8年に活動を開始  
した当博物館は、現  
在、時代の変化とと

ともに、その目的を一般昆虫の啓蒙普及の場に移し活動しています。活動理念はと尋ねられれば、直接的には、見る人に昆虫の世界のおもしろさを知っていただくこと、ということになるでしょう。昆虫専門の博物館の目的としては、これだけでも十分ですが、これはあくまで導入であって、できるならもう一歩先に進んでいただければという思いは当然持っています。つまり「昆虫を通じて、自然をイメージする」というところまで行ってほしいというのが、本質的な当博物館の活動理念なのです。

ただ、どんなに立派な理念を持っていても、当博物館のように自主運営を余儀なくさせられている組織にしてみれば、来館者が減ってしまえば、活動を続けることができなくなるので、信念は持ち続けるものの、それを展示場にストレートに反映させるのはできるだけ控えてきました。そして第一に考えるのは、常に「見る人が喜んでくれること」です。実物の虫が持つ魅力に素直に触れてもらえることだけを心がけてきました。もっと消極的なことを言うのなら、虫が苦手な人でも、目を背けないですむような展示を追究してきました。そのためには、「【何を見せるか】ではなくて、【何を見せないか】」（当館展示プロデュー

サー）ということ意識して、展示に携わる自分たちが十分楽しみながら、展示物を製作することが重要だと認識するに至りました。

このため、一部の方から批判もいただきます。「あの虫が展示してない」「系統分類についてのコーナーがない」などなど。これらの批判が我々の耳に届いてくるのと同時に、「おもしろかった」「想像してたより楽しい」という声も増えてきました。どんな人にも受ける展示というのは、それをプロデュースしている人間が主張をしていないということです。誤った思想を押し付けたり、事実をねじ曲げて表現するという事はあってはならないことですが、「私たちは虫の魅力に参っています。そんな我々の目を通して表現した虫の魅力に触れてみて下さい。」という主張は、悪いことではないはずで、これで入館者の支持が得られるかどうかは、入館者と我々とは対等の立場に立って議論するのと同じことで、どのような結果になっても、次につながるはずで。

現在、当博物館にはスタッフが5名います。当館の展示プロデューサーは、私よりも1年ほど先輩で、彼を中心に、20年以上かけて現在の展示場のすべての展示物を手作りで製作してきました。理想的理念を胸の奥にしまいつつ、より多くの方々に入館していただきたいという思いでやってきた結果が、実は、その思想を結構反映した展示になっていると気づいたのは、ここ数年のことです。

「おもしろかったねえ。」 子ども。

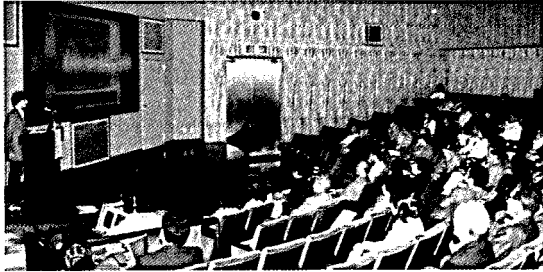
「本当だねえ。」 父親。

「また、来ようね。」 子ども。

帰ろうとする一組の親子の会話。我々の思いが伝わったと思える一瞬です。

### 第103回岐阜県博物館協会公開講座報告

期 日：平成16年10月3日  
場 所：岐阜県美術館  
参加者：54名



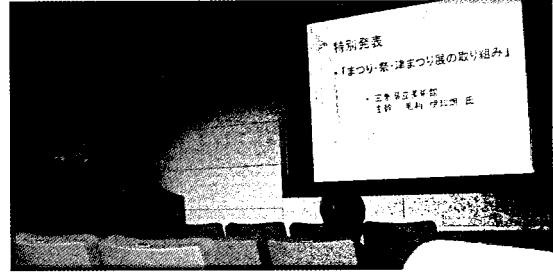
今年度最後の博物館協会主催の公開講座は岐阜県美術館で行われている「熊谷守一寄贈作品資料展 [守一ののこしたもの]」を企画し準備された、岐阜県歴史資料館の金森透（調査担当）と岐阜県美術館の広江泰孝（日本洋画担当学芸員）の2人による講演であった。寄贈を受けてから1年もない状況の中で調査と研究を急ピッチで進められてきた成果の発表であり、さらに、歴史系と美術系の学芸員による連携事業であり、初めての形での展覧会であった。特に3000点に及ぶ新しい資料から、これまでの定説を塗り替えるような内容をどのように発表し公表してゆくかを定めるために、方向性を探る協議が繰り返されたようだ。

前半の金森氏からは、歴史的な背景と守一の生育環境を眺める概括的な説明の後、今回公表された若い時代の旅行記から美術学校を出てからの守一の交友、心境という内面に至る言葉を拾い理解を深め、父の生きた立身出世とは反対の無欲で自然な生き方の発端を覗く解説であった。次に、展覧会出品、母の死、郷里付知での生活、そしてたくさんの小旅行の数々を日記から拾い、全く他の人が入り込む余地のない画境に至ったことを知ることのできる「深い眠りから覚めた・・・」「迷子の迷子の自分と一息つく」といったことばを提示して今回の守一像をまとめられた。

また、広江氏は1000点近い下絵やスケッチなどの未公開作品から、作品の裏側に宿る守一のモチーフに対する熱意や愛情の表現を示し、その作品の具体的な拡大図をハイビジョンで写しながら解説した。特に、世に出さなかった作品や、もう一枚コピーをして手元に残したりする技法を作品の比較から興味深く提示された。（岐阜県美術館 堀川厚則）

### 第29回東海三県博物館交流研修会報告

期 日：平成16年10月8・9日 9:00～15:30  
場 所：三重県立美術館  
参加者：60名



台風22号の接近による豪雨の中、第29回東海三県博物館協会交流研修会が三重県立美術館で開催された。三重県博物館協会中村幸昭会長（鳥羽水族館館長）は、開会挨拶で博学連携強化の必要性を述べるとともに、地名を取り上げ、地元三重の地域性を概説した。

次に、現在開催中の企画展「まつり・祭・津まつり」について、三重県立美術館毛利伊知朗主幹と津市教育委員会園田純子学芸員が特別発表を行った。

まず、企画展が、ニューヨークパブリックライブラリー所蔵の「津八幡宮祭礼絵巻」を地元で展示したいという民間団体の希望から実現した経緯を紹介した。

また、こうした経緯もあり企画展は民間団体を含めた実行委員会を組織して準備・運営されており、その取組について説明した。

発表後、実行委員会運営上の具体的問題点について教えて欲しいという質問があった。質問に対し、一つは、企画展のテーマについて教育委員会は当初「城下町の祭礼」「まつり・祭」という案を示したが、祭礼という言葉が研究者呼称で分かりにくいとか、「津」という地名を入れて欲しいと要望され今のテーマに落ち着いたこと。二つ目は、協賛金を募っての運営で、黒字収支となる見込みであるが割り戻しを考える教育委員会に対し、民間団体は黒字がでること自体がおかしいと指摘。これについてはまだ結論が出ていないと説明した。

個別発表では、「当館（うち）のいちおし～ここまできたに～」をテーマに全館が順次発表したが、館の紹介を10分以上延々と述べる場所もあり、内容・形態を再考する必要がある。この後、交流会と二日目の施設見学が実施された。

（岐阜県博物館 大澤洋司）

## 第60回 岐阜県博物館協会会員研修会報告

期 日：平成17年2月24日

場 所：内藤記念くすり博物館

参加者：29名

博物館、美術館、図書館などの収蔵品をはじめ有形・無形の文化資源などを、デジタル化して保存等を行うデジタルアーカイブへの動向が盛んになってきています。

デジタルアーカイブによって、デジタルネットワーク文化の集積・発信拠点として中核的な機能を果たし、様々な文化財、美術品、地域文化、舞台芸術、重要な公文書等の歴史的資料等に関する情報が、地理的な制約を受けることなく入手・利用できる環境が実現できるようになるといわれています。

第60回会員研修会では、内藤記念くすり博物館の館内見学をした後、画像情報処理のコンサルティングからシステム構築・データ作成までを総合的にサポートされているナカシャクリエイト(株)の和田紳一氏を講師にお迎えしてデジタルアーカイブについてお聞きした後、二つの施設が事例報告を行われました。

### ●資料のデジタルアーカイブ化とその公開事例 ナカシャクリエイト(株)

画像情報部 和田紳一氏



デジタルアーカイブ構想とは、文化資産を記録制度が高く、再現性に優れたデジタル情報の形で記録し、蓄積、保管して、誰もが自由に閲覧・鑑賞できるようにするとともに、

世界規模の情報通信ネットワークを利用して情報の受発信を行うことにより、次の世代に正しく継承することを目的とするものです。

デジタルアーカイブ白書をもとに、日本全国の博物館・美術館・図書館・公文書館・大学や研究機関・自治体や公共団体、民間企業などで実際に行われている現況について説明いただきました。そして共通する問題点やアーカイブ化のための技法として、撮影やスキヤニングなどのデータの作成やシステムなどの具体的方法やアドバイスなどを聞いた参加者からは、各館の状況に置き換えて模索する活発な質疑応答がありました。



### ●内藤記念くすり博物館ホームページの効果的な企画と実践

内藤記念くすり博物館

学芸員 伊藤恭子氏

公式ホームページ「くすりの博物館」

<http://www.eisai.co.jp/museum/index.html>の概要として、バーチャルな博物館（ホームページ内）とリアルな博物館（実際の施設内）、それぞれの特徴を生かした構成となっているホームページの紹介がありました。動画やイラストなども交えて、子供から専門家までがそれぞれに楽しめるように考えたコンテンツの導入など、リピーターを増やすための工夫がなされています。

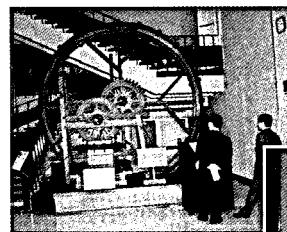
### ●岐阜市科学館の事業について

～集客増を目指して～

岐阜市科学館

副主査 正村 仁氏

集客数を増やすための改善策として、①楽しい展示②科学教室の再編③他の機関との連携、と三つの視点から分析して、それぞれに対してガイドポケットの作成、サイエンス工房の設置、共催催し物の増設という具体的な方策についての紹介があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



(機関紙委員 内藤記念くすり博物館 野尻佳子)

## 関ヶ原町歴史民俗資料館

〒503-1522 関ヶ原町関ヶ原894-28  
TEL: 0584-43-2665

関ヶ原町歴史民俗資料館は、昭和57年に古戦場の町の歴史探訪の拠点施設として、建設されました。歴史愛好者にとっては、一大関心事である天下分け目「関ヶ原の戦い」を内容としており、資料館が家康の最後の陣跡であり、首実検場である陣場野に建っているということで、毎年多くの人々に親しまれてきました。しかし建設されてから20年を経ると、この変化の激しい時代に設備としても合わないところが出てきます。そこで、資料館のリニューアル整備を行い、学習・観光の一層の推進と文化行政の振興を図られました。



整備の概要としては、

- ①ハイビジョン・ライブラリーの設置
- ②関ヶ原合戦解説ジオラマの改修  
現在のジオラマ設備の部分改修をする
- ③バリアフリー事業  
エレベーターの設備を整える  
身障者トイレの設置をする  
上履きを廃止して、土足入場とする  
屋外スロープを新設する
- ④展示室の改修  
二階学習室を展示室に改修する  
展示室の内装の張り替えをする
- ⑤駐車場の改修

その財源対策として、

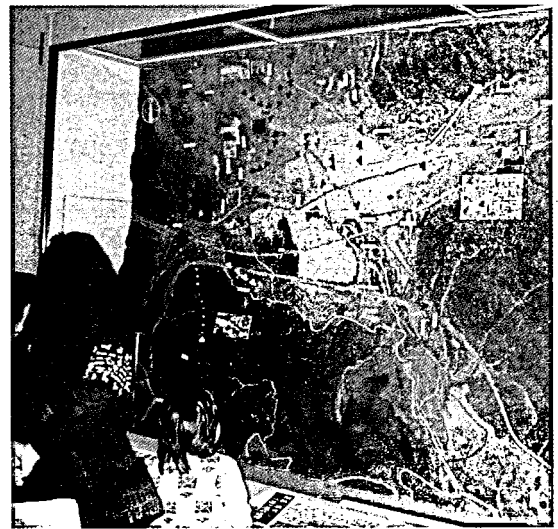
- ①ふるさと振興基金充当事業
- ②県ニューリゾート振興補助金申請事業

### ③起債事業 町づくり特別対策事業

を利用されました。

20年前と比べると、最近の資料館の特色としては情報機器の利用ということがあります。その面で「関ヶ原の戦い」についてテーマに応じて映像を選択して観ることができるハイビジョン・ライブラリーは、来館者に好評でありひとり一人の滞館時間も長くなったということでした。

②のジオラマについても開館以来いろいろな資料を目にすることができました。そこでより合戦の様子が目に浮かぶようにということで、各陣所の表示に屏風絵の一部を取り入れられました。それによって合戦の雰囲気が感じられるようになったということです。それに電光ランプの点滅によって軍勢の動きを示したり、音楽や効果音も工夫されました。



③のバリアフリー事業では、いままでは玄関で上履きに履き替えていたのを土足可にしたということですが、時代の流れを感じさせる象徴的なことと思えます。車いすも利用することができます。

先日も某新聞が、資料館は建てられ開館はしたが、開館当時に比べて多くの館で入場者が激減していることを伝えていました。

その対策として時代に合った改修ということがあります。これには多額の費用が掛かります。現在の経済情勢のなかでは困難なことが多いと思います。しかしできるかぎりの努力をしていくことの参考として関ヶ原町歴史民俗資料館の紹介をさせていただきました。

(機関紙委員海津町歴史民俗資料館瀬古尹宏)